



ワンオフ外装も駆使しつつ 追求する実用的な当時風改

BRC Z400FX

TIRE:DUNLOP TT100GP [F]100/90-19 [R]14.00-18



1



2



3



4



5



6

①ベースは'80年式でフレームなどはノーマルのまま。フォークは純正+LEAD製エアフォークキットでステアリング左サイドにはJMC製ステアリングダンパーを装着している。ハンドルはJAPAN SPEED製
②この車両のために雄型から起こしたFRP製シートカウル。なかなかの雰囲気だ
③エンジンはφ55mmのセファー純正ピストンを流用し500cc化。BRC製高性能イグニッションコイル、ブリーザーパイプキット、ロックハート製オイルクーラーなどを装着。キャブは純正をファンネル仕様にしたもの。アルフィンカバーカバーはLEAD JAPAN製
④19/18インチのホイールは純正をリペイントしたもの。ブレーキディスクは他機種純正を流用&トレンチ(溝)加工を施したもので、リヤキャリアはBEET製サポートにてフローティングマウント化されている。リヤサスは定番のKONI、EXは同店製機械曲げ

当時風カスタムに力を入れる、四国のBRC。絶版パーツや当時風パーツにも強く、この手のカスタムが好きで人にとっては、じつに頼もしい存在だと言えるだろう。レトロテイストのコンプリートマシン製作も随時行っており、このZ400FXもそのうちの1台。一見して分かるように70年代〜80年代初期のカフェスタイルで仕上げられている。「より高い完成度にするため、既存パーツの細部手直しなどもやってます。この車両ではタンクカバーがそうで、干渉部の逃げ加工、燃料キャップ部のパテ埋め加工などをした上で、純正タンクとの接着を行ってます。外装がピシッと決まらないうと、カフェスタイルは様にならないですから」(同店代表・渡邊さん)

聞けば、この車両に装着されているシングルシートも同店によるワンオフ品とのこと。こんなところから、完成度を高めるためだったら手間は厭わないという、同店の意気込みが伝わってくる。「じつはFRP製品の製作って、今までやったことがなかったんですよ。独学で試作を繰り返して試行錯誤の結果、ようやく納得できるものできました。もちろん製作は雄型からやってます。最終の割型を外して、無事製品ができたときは、さすがにホッとしましたね(笑)」

エンジンはゼファー純正ピストンを使い500cc仕様へとスリーブアップされているが、その他の部分に関しては基本純正を踏襲(フロントブレーキは純正キャリアでダブルディスク化)。乗り味のバランスも良く、整備補修などもしやすいだろう。「当時のイメージを崩さない。かつ長くつき合えて飽きのこないカスタムであること」という同店のポリシー通りの仕上がりとなっているのだ。